

## 中国地方の地震と断層～山陰地震帯の特徴

日時： 2018年10月13日(土) 14:00-17:00

場所： くにびきメッセ 国際会議場

【主催】 地殻ダイナミクス研究グループ

【共催】 島根県

【後援】 島根大学 自然災害軽減教育研究センター、とっとり防災危機管理研究会、  
鳥取大学 工学部附属地域安全工学センター、  
京都大学 防災研究所地震予知研究センター

【お問合せ先】 島根大学 総合理工学部 地球科学科 向吉 秀樹

2016年の鳥取県中部地震、2000年の鳥取県西部地震、これら以外にも日本列島では数多くの地震が発生しています。地震・火山活動の予測が重要な課題の一つである一方、これらの発生の仕組みがよくわかっていないという現状があります。

昨年度、地域の方々の暖かいご支援・ご協力を頂き、2000年鳥取西部地震余震域にて1000点の観測点をおよそ1Kmおきに設置し、1年間連続でデータを取り続けることができました。また、今年4月の島根県西部地震においても臨時観測を行うことができました。

これらの成果も踏まえて、内陸地震や内陸の変動に関して、これまで未解決だった謎を明らかにすることが本計画の目指すところです。この講演会では、山陰地方の地震帯における地震活動や地震防災への理解を深めるとともに、最新の研究・観測結果について紹介します。

14:00-14:25 西村 卓也 GNSS観測から明らかになった山陰ひずみ集中帯

14:00-14:50 飯尾 能久 鳥取県中部地震と西部地震

14:50-15:15 香川 敬生 山陰地域で近年発生した地震の地震動特性

-休憩-

15:25-15:50 松本 聡 0.1満点地震観測で見えてきた、地殻の活動

15:50-16:15 加藤 愛太郎 地震観測と地質調査をつなぐ新しい架け橋

15:15-16:40 向吉 秀樹 地質調査から見えてきた山陰地方に発達する断層の特徴